

# Asia Indicators

発表日: 2025 年 10 月 24 日(金)

## 台湾・9月輸出受注は半導体がけん引役に(Asia Weekly(10/20~10/24))

～米国向けのみならず、中国本土向け、欧州向け、ASEAN 向けなどで幅広く底入れを確認～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

### ○経済指標の振り返り

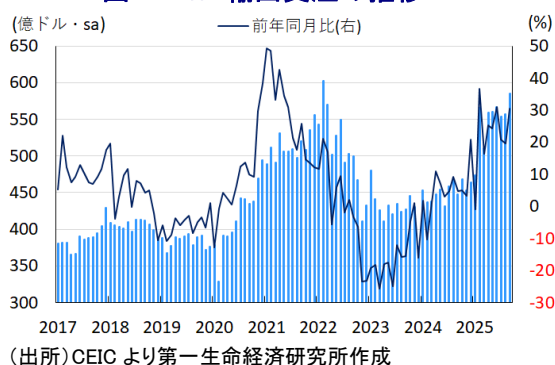
| 発表日      | 指標、イベントなど                 | 結果     | コンセンサス | 前回     |
|----------|---------------------------|--------|--------|--------|
| 10/20(月) | (ニュージーランド)7-9 月消費者物価(前年比) | +3.0%  | +3.0%  | +2.7%  |
|          | (中国)7-9 月実質 GDP(前年比)      | +4.8%  | +4.8%  | +5.2%  |
|          | 9 月小売売上高(前年比)             | +3.0%  | +3.0%  | +3.4%  |
|          | 9 月鉱工業生産(前年比)             | +6.5%  | +5.0%  | +5.2%  |
|          | 9 月固定資産投資(年初来前年比)         | ▲0.5%  | +0.1%  | +0.5%  |
| 10/21(火) | (ニュージーランド)9 月輸出(億 NZ ドル)  | 58.2   | --     | 58.5   |
|          | 9 月輸入(億 NZ ドル)            | 71.8   | --     | 70.8   |
|          | (台湾)9 月輸出受注(前年比)          | +30.5% | +17.8% | +19.5% |
| 10/22(水) | (マレーシア)9 月消費者物価(前年比)      | +1.5%  | +1.4%  | +1.3%  |
|          | (インドネシア)金融政策委員会(政策金利)     | 4.75%  | 4.50%  | 4.75%  |
| 10/23(木) | (韓国)金融政策委員会(政策金利)         | 2.50%  | 2.50%  | 2.50%  |
|          | (シンガポール)9 月消費者物価(前年比)     | +0.7%  | +0.6%  | +0.5%  |
| 10/24(金) | (シンガポール)9 月鉱工業生産(前年比)     | +16.1% | +0.5%  | ▲9.0%  |

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### [台湾]～トランプ関税の本格発動後も米国向けに堅調さ、世界的な IT 需要の旺盛さが輸出受注を押し上げる～

21 日に発表された 9 月の輸出受注額は前年同月比+30.5%となり、前月(同+19.5%)から伸びが加速した。前月比は+5.12%と前月(同+0.67%)から 2 ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連の受注が大幅に拡大したことが全体を押し上げている。国・地域別でも、トランプ関税の本格発動を受けて頭打ちが懸念された米国向けが堅調な動きをみせるとともに、最大の輸出相手である中国本土向け、欧州向け、ASEAN などアジア新興国向けなど幅広い国・地域向けも拡大しており、世界的な IT 需要の旺盛さが受注を下支えしている様子がうかがえる。

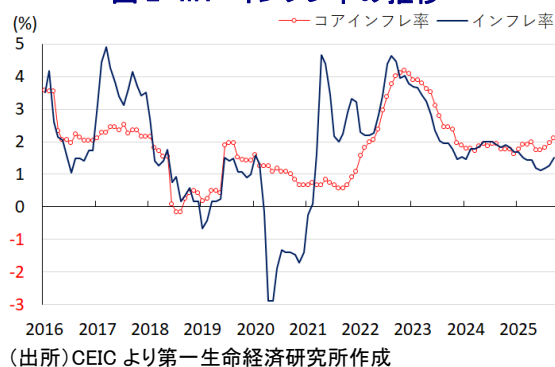
図1 TW 輸出受注の推移



### [マレーシア]～生活必需品を中心に物価上昇圧力が高まるほか、サービス物価に上昇圧力がくすぶる展開～

22日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+1.5%となり、前月（同+1.3%）から加速して7ヶ月ぶりの伸びとなった。前月比も+0.22%と前月（同+0.15%）から上昇ペースは加速しており、補助金政策の見直しを受けてエネルギー価格が上昇するとともに、生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇の動きを強めるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まる動きがみられる。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+2.1%となり、前月（同+2.0%）から加速して約2年ぶりの伸びとなっている。前月比は+0.30%と前月（同+0.37%）から上昇ペースはわずかに鈍化しているものの、エネルギー価格の上昇を受けて輸送コストが押し上げられる一方、金融市場における通貨リング相場堅調さが輸入物価を抑えており、幅広く財価格は落ち着いた推移をみせているものの、サービス物価に上昇圧力がくすぶる動きが続いている。

図2 MY インフレ率の推移



### [シンガポール]～9月の生産はバイオ・医薬品関連の上振れが影響も、分野ごとのバラつきは一段と鮮明に～

23日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+0.7%となり、前月（同+0.5%）から加速したものの、8ヶ月連続で1%を下回る伸びで推移している。前月比は+0.51%と前月（同▲0.45%）から3ヶ月ぶりの上昇に転じており、国際原油価格の調整を反映してエネルギー価格は落ち着いた推移をみせているものの、生鮮品や穀物などをはじめとする食料品価格は上昇しており、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+0.4%となり、前月（同+0.3%）からわずかに加速しているものの、9ヶ月連続で1%を下回る伸びで推移している。前月比も+0.26%と前月（同+0.06%）から上昇ペースは加速しており、エ

エネルギー価格の安定を受けて輸送コストは落ち着いた推移をみせるとともに、金融市場におけるSGドル相場の堅調さも追い風に輸入物価も落ち着いており、幅広く財価格は安定している一方、幅広くサービス物価に上昇圧力が掛かる動きがみられる。

24日に発表された9月の鉱工業生産は前年同月比+16.1%となり、前月（同▲9.0%）から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も+26.26%と前月（同▲11.00%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている。同国では月ごとにバイオ・医薬品関連の生産が大きく上下に振れるとともに、生産全体の動向を左右する傾向があり、当月は前月比+503.07%と大きく上振れしたことが影響している。なお、バイオ・医薬品関連を除いたベースでは前月比+0.80%と前月（同▲5.06%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせている。主力の輸出財である半導体など電子部品関連で堅調な動きがみられるほか、金属関連の生産も底堅く推移する一方、化学製品関連や機械製品関連の生産で下振れする動きが確認されるなど、分野ごとのバラつきが鮮明になっている様子がうかがえる。

図3 SG インフレ率の推移

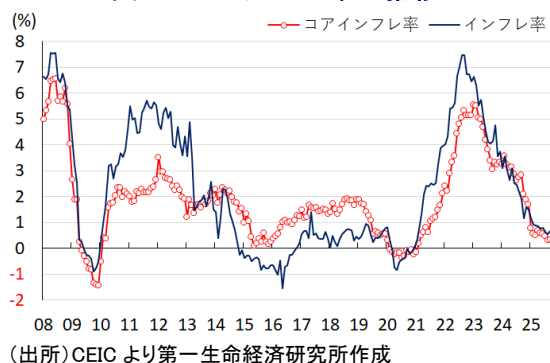
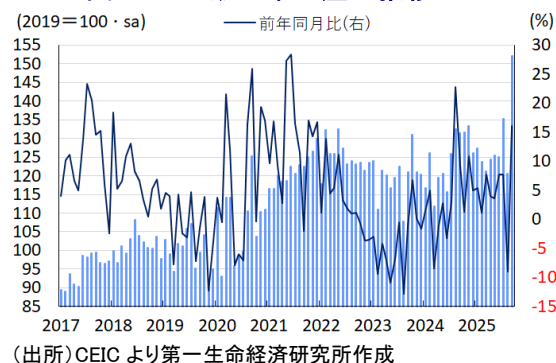


図4 SG 鉱工業生産の推移



以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

